

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100213		
法人名	大分県医療生活共同組合		
事業所名	グループホーム六本松二番館		
所在地	大分市大字津留字六本松1970-7		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100213-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	令和元年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①医療デイを利用し日中のリズムや活気が出るように支援している。
- ②入居者様と一緒に家事や嗜好品を提供するのに買い物に出かけたりしている。
- ③庭の手入れをして作物や花などを植え収穫したり庭の手入れをしている。
- ④レベルに合わせた個別のお出かけをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設10年目の医療法人が運営する施設です。医療・福祉の面において連携のもと、事業所運営を行っており、災害時や緊急時における医療機関との協力体制の構築に努め、利用者・家族の安心に繋がっています。地域交流を図る中で、第2日曜日に「みんなの食堂」を開設し、誰でも利用できる取り組みは地域貢献に繋がっています。また、利用者は医療デイサービスを利用し定期的な外出、参加者との交流等を楽しみにしており、日中のリズムや活気に繋がっています。支援の中で、入浴は温泉を利用していることもあり、職員の適切な対応等で入浴拒否の利用者がいないことも大きな特徴です。管理者・職員も理念を念頭に置きながら明るく常に笑顔でコミュニケーションを図りながら、利用者との信頼関係を構築し、安心して生活できるよう支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2番館独自の理念を玄関・事業所内に掲示して理念を介護の実践に役立てている。また理念については年1回学習会を行っている。	法人の理念とともに、事業所理念をキーワードに、原点を見失わないよう、会議等で周知、再確認を図り共有と統一ケアに取り組んでいます。また、理念を理解しやすいようイラスト化した工夫も見られます。	新人職員に対しオリエンテーション等で理念の理解・共有を指導する中で、職員が個々の目標を立て、定期的に振り返り見直しを行うことで、更なる支援の統一に繋げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩やお店に買い物に行ったときに交流したり墓参りや平和行進等イベントに参加したり裏川沿いを落ち葉掃除をして交流も図れた。	開設当初より、地域の一員としての関係を大切に取り組んでいます。運営推進会議での情報交換や日常の交流(散歩や買い物時の挨拶や会話)を通し地域関係を深め更なる交流の機会を増やせるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの介護家族の集まりの「茶話会」に参加し認知症の方に対する理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で市の職員、家人、包括センター職員、自治会長、民生委員からインシデント・アクシデントの報告に対しての意見をもらいサービス向上に活かしているまた身体拘束についても同時に委員会を開催している。	会議では、行政、地域、家族、事業所の関係者がメンバーとなり定期開催されています。事業所の行事や利用者の現状報告等を議題に上げ意見交換を行い、サービスの質の向上に活かせる意見が出されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課の職員や地域包括センターの方に運営推進会議に参加してもらい助言を頂いている。不定期ではあるが1～2か月に1度あんしんサポートさんがおこずかいを持ってきてくれる時に交流がある。	運営推進会議に出席して頂いた際に情報交換や相談・指導を受けており、市役所に出向いた際には関係部署も訪問し近況報告をしています。また、警察署・消防署の協力の依頼も今後の計画に考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で年に2回学習会を行いケアの実践に繋げている、参加出来なかった職員にも伝達し資料を配布している。	身体拘束廃止、虐待防止の徹底に関して年2回の学習会及び毎日のミーティング時に話題に取り上げ、意識の強化を図っています。転倒や敷地内への徘徊等は事故に繋がる可能性があるため、見守りの徹底に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで学習会を行いケアの実践に繋げている、参加出来なかった職員にも伝達し資料を配布している。社内のメール等で資料がある時は追加で伝達ノートに掲示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大分県主催の権利擁護の研修に参加し、伝達してもらい資料も配布した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居者及び家族の移行に対し説明を行い納得して頂いている、契約解除の際にも対応を行い支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方には聞き取りを行い家人には面会時や毎月の状況報告用紙や運営推進会議等で意見を頂いている、法人の満足度アンケートからも意見を頂いている。	家族には運営推進会議、家族会、満足度アンケート調査(法人)及び面会時に積極的な声掛けや、利用者の話題提供等を行い、発言し易い雰囲気づくりに留意し、忌憚のない意見が出されておりサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や個別の面談時に意見や提案を頂き運営に反映している。	職員の意見、要望は管理者を通じて施設長及び法人に迅速に伝わり、早期の実現に繋がったり、内容に応じて職員会議で全員の意見を聴く仕組みが来ています。現在、職員の要望で浴室の改装を計画しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事長は、センター長、管理者、労働組合等を通じて、職員や職場の実態把握をしており、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量チェックリストにて、個別面談を行いながら、管理者が評価、指導するようにしている。年間の教育計画を立て、介護部会で学習会や学術の事例発表等職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加することによって、他事業所のサービスや運営方法を学ぶ機会がある。学術や発表会交流会等に参加し意見交換している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の自宅や入所施設を訪問して、これまでの経緯や現在の生活状況、要望を把握するように努めている。また、入所時のアセスメントで、本人の困っている事や不安な事に耳を傾け、安心してもらえるよう寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に利用者の生活状況や家族の思いや要望等を聞き取り、一緒に利用者の支援について考え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、相談者の心身の状況や生活環境等を確認し、支援の方法を検討している。まずは、グループホームでの生活に慣れもらえる様、なじみのある店や人との交流を継続できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、やりたい事を見極め、食器洗い、片付け、庭掃除等の家事を中心に、職員と一緒にすることにより、共に生活する者としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に利用者を支えていけるよう、面会時や電話、報告書等で利用者の生活の様子を伝え、家族の協力を得なければ出来ないプラン等も提案し、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時やその後も、本人や家族からの情報を聞き取り、家族や馴染みの場所、人との関係が途切れないように連絡を取ったり出かけたりしている。	馴染みの友人・知人の来訪は段々少なくなる中で、家族、親類の関係性を大切に支援に繋げています。家族の協力で墓参りや外食、孫が散髪をしに来たり等協力をお願いします。また、医療デイサービスを利用し、その中で友人が出来、楽しみに通う利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を把握し、食事の席や体操時ケアプランの実行時に「配慮して、利用者同士が支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、希望や必要があれば訪問したり経過を尋ねたりしている。また、いつでも相談して下さるように声掛けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から思いや希望を聞き取り、その人らしくのびのびと生活できるように、また希望が実現できるようにプランに反映させている。聞き取り困難な場合は、職員会議等で検討している。	日頃接している中で利用者の表情や変化に気づき、思いの把握に努めています。利用者の希望をもとに行動計画(花火を見たい、100円ショップに行きたい等)を作り可能な限り支援に繋げています。ゆっくり話す場面を多く作っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等の情報を、入所時や入所後も本人や家族から聞き情報を得て支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活スタイル、心身状態、出来る事、出来ない事等の情報を、日々のケアの中で、また、カンファレンス時に把握するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からはもとより、医師、看護師、薬剤師等にも課題やケアについての意見を求め、全職員からの情報をプラスして、今1番実現したいプランを作成している。	毎月のモニタリングで、ケアプランに対し評価表を作り、担当者がコメントを入れ、今後の方針や見直し(3ヶ月～6ヶ月毎)に取り入れています。プランの中には生活訓練を取り入れ、病院での機能訓練や行動計画(利用者の一番実現したいこと)を策定し支援に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を業務日誌、重要事項や全職員に伝えたい事は伝達ファイルに記入し、出勤時に読み、申し送りやカンファで情報を共有しながら、日々の実践やプラン変更時に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期プランには、利用者が今1番実現したい事や必要な事を取り上げ、生きがいのある生活が送れる様に取り組んでいる。全員でのお出掛けや個別外出等、柔軟な支援をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店で買い物をしたり、散歩に出かけた際に、地域の方々と挨拶を交わし、顔なじみの関係を築くことで、利用者の安全で豊かな生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を確認し、けんせいホームケアクリニック、けんせい歯科による訪問診療を利用している。また、他の医療機関を受診する場合は、通院介助をしている。	入所の際、利用者・家族に訪問診療や協力医療機関の説明、また体調の変化や急変時の際速やかに対応できる体制であること等の説明を行い、納得が得られた受診の支援に取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日に定期で2名から3名を訪問看護ステーションから看護師が来て利用者の状態を確認する。介護職員は何でも相談できる。必要であれば、いつでも臨時訪診や受診を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する時は、利用者の心身の状態やケアの情報提供をし、不安、不穏の軽減に努めている。入院した際は、職員は度々面会に行き、早期に退院できる様、主治医、看護師、リハビリとカンファレンスを開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については家人や法人内の訪問看護ステーションやけんせいホームケアクリニックの協力を得る事ができる。チームとしての支援に取り組んでいる。事前に勉強会も行い、終末期には施設に泊り込みも出来る様に支援している。	重度化や終末期に関する方針は、利用者の状態に合わせその都度説明を行い、医療機関と連携がスムーズに取れる体制が構築されています。終末期には家族も傍で付き添う事が出来、利用者・家族の意向を十分配慮した看取り支援に、多職種のチームで取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変や事故発生時に備え、全職員が応急手当や初期対応が出来るように、学習会を行って実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルがあり、防災訓練、避難訓練を年2回実施している。近隣の職員や北下郡自治会にも協力をお願いしている。	マニュアルをもとに防災訓練、避難訓練を年2回実施しています。訓練を行い色々と挙がった環境面での問題点についても検討中です。自治会や地域住民、近隣に住んでいる職員の協力も視野に入れ災害時についての協力体制の構築に取り組まれています。	自然災害への取り組み、近隣の方々との協力体制の取り組み、施設構造上の環境面での対策等、真摯に取り組まれている姿勢が伺われます。今後の取り組みに期待が持てます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を大切にし、プライバシーを尊重した言葉かけや対応を心がけている。	病院全体での研修会や、施設内での研修会も継続的に開催されています。新人職員研修時にも、利用者を大切にする気持ちを持つことや、名前を苗字で呼ぶこと等を伝え、職員全員で利用者を尊重する支援への取り組みが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者の思いや希望を把握する為に、ゆっくり話を聞いたり言動をよく観察したりしている。利用者が自己決定できるように、待ったり、声掛けの工夫をしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの決まりは、特にない。起床、就寝、面会時間等自由で、一日の流れは利用者のペースを尊重した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は、希望や趣味に合わせて髪形、服装、化粧等を楽しめるように支援している。月に1回アロマセラピーの訪問、訪問理容、美容も利用し、プロのカットを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや洗い片付け等出来る人が出来る事に参加できるように支援している。嚥下状態の悪い利用者には、お粥やミキサー食等を提供し、皆と一緒に食事を楽しんでいる。	三食すべて手作りをされています。利用者の能力に合わせ出来る事は声掛けをし、参加していただく支援を行っています。食べたい物は広告や料理番組を見ながら発した言葉をヒントにして楽しい食事作りに活かしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく摂取できる様、水分1500ccを目安に支援している。食事量の少ない利用者には、食べやすい調理の工夫や栄養補助食品を摂ってもらうこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状況により、個別にケアをしている。また、ホームで十分な口腔ケアが出来ない場合には、定期的にけんせい歯科の訪問診療を受けて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のペースで気持ちよく排泄できるよう、排泄パターンの把握や排泄のサインを見逃さないように注意して誘導している。ズボンの上げ下げ等出来る方は、見守るようにしている。	排泄チェックシートを利用し、タイミングを見ながら声をかけています。その際尊厳を損なわないように声掛けの仕方にも、職員間で話し合いを行っています。利用者の残存機能の低下を予防する取り組みを、積極的にを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は、心身の状態悪化をきたし易い。個々の身体状況に合わせ、食品の提供、食事、水分等共に、緩下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数は、特に決まっていない。毎日でも可能。入浴時に危険がないよう注意し、その方の能力を大切にゆっくり介助している。おしゃべりなどで入浴が楽しみになる様に支援している。	地下から汲み上げた温泉で、ゆっくり体を温めリラックス出来るように支援しています。利用者の重度化に伴い、事業所のお風呂に入るのが難しくなった方には、訪問入浴で対応し清潔の保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、本人のペースで生活してもらっている。必要な方には、休養を促す声掛け、援助をしている。夜間は、個々に合わせ就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察後は、診察所見と処方された薬については記録に残し、申し送りで情報を共有する。服薬後の状態変化を観察している。薬剤師からも処方薬の情報を受け、服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活や家事の能力を活かした活動をしてもらい、自信と意欲が持てるように働きかけている。外出、外食等の楽しみの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別又は複数で、買い物、ドライブ、初詣、外食等利用者の心身の状況や希望に応じて支援している。家族にも声をかけ、一緒にお出掛けをしている。	個別対応にて嗜好品や衣料、日用雑貨等の買い物に出かけています。季節の行事ドライブにも心身機能や体力に合わせながら、希望を伺い実現可能な範囲で、叶えてあげられるよう取り組まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは、本人、家族の希望に合わせ小額のお金を財布に入れて支援している。できる方は、買い物時財布からお金を出す等をしてもらっている。お金を使えない方も、初詣等でお金を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時や誕生日等に家族や大切な人に電話をして話してもらうことがある。また、年賀状の書ける方は、出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから中庭が見え、花や鳥を眺めたり、夜は明かりを点け開放感を味わえる。家族やボランティアからの差し入れの花を飾ったり季節の物を飾ったりして、季節感を大切に楽しんでいる。	リビングからは、調理をしている姿や野菜を切る音・料理が出来上がる臭い、大きな窓からは人の行き来、庭の花や木々からは季節を感じることが出来る共用空間となっています。又利用者が作成した作品も綺麗に整理し飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関にソファやイスを配置し、好きな場所で思い思いに寛げるようにしている。職員は、利用者が1人で寂しそうな時や落ち着きのない時は、皆の輪の中に誘ったりさり気なく寄り添ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具や好みの物、家族の写真等を置いてもらい、寛げるようにしている。	居室には大きな窓があり、災害時にはベッごと外へ避難できる様になっています。居室内の整理整頓が出来ています、利用者の思いや身体機能に合わせた家具の配置や飾りつけで、居心地よく過ごしやすい居室作りに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が動きやすく生活しやすいように、リビング内にテーブルやソファを配置している。各居室の入り口には、自分の部屋だと分かりやすいように表札をつけている。		